

【資料1】

令和4年度 第2回 保護林管理委員会等における意見概要と対応について

NO	課題	委員からの主な意見	対応の方向性など
1	現地確認調査報告	<p>緑の回廊を含むエリアやその近郊で計画段階の風力発電事業について、事実関係等を早めに把握しておくべき。</p> <p>まだシカの影響が及んでいない稲生岳森林生態系保護地域や猪八重照葉樹林生物群集においては、シカの生息状況に注視しつつ、侵入初期の段階で対応できるようにすることが大事。</p> <p>それぞれの委員の専門性が活かされ、森林のタイプをイメージしながらコメントいただけるように、現地確認の機会を増やしてほしい。</p>	<p>局・署で情報収集を行っており、委員には適宜情報共有しているところ。引き続き情報収集し、緑の回廊設定方針を踏まえ、適切に対応していく。</p> <p>両保護林の保護林設定管理方針書にも反映しており、低密度地域におけるシカ捕獲などについて局署で連携し、適切に対応していきたい。</p> <p>今回の委員会では、保護林の現状をイメージしやすく、意見交換が活発になるよう白髪岳の現地確認を1日目に実施することとしたところ。また、今年度中に他の保護林についても現地確認の機会を追加できるか、各委員のご意見、委託事業の状況等を踏まえ検討したい。</p>
2	令和4年度保護林モニタリング調査結果について	<p>猪八重照葉樹林生物群集保護林の調査結果資料での林道名の記載について、「海一郷(かいいちごう)」となっているが「家一郷(かいちごう)」ではないか。</p> <p>次期モニタリング調査地点の統合、移転又は中止(アクセス困難なプロット)等については、必要な箇所の抜けが生じないかもう一度点検が必要ではないか。</p> <p>保護林毎のシカ被害レベルの評価について、平均値で評価した場合、保護林によってはばらつきが大きくなり、適正な評価ができていないと考えらえる。このため、平均値だけではなく情報を加えて評価する方向での検討をお願いしたい。</p> <p>シカの捕獲状況と植生回復の関連性について、市町村や県が持っているデータ等を活用して分析を行えば、どのくらい捕獲すべきかといった方針策定に使える。また、森林総研が実施している取組とも連動できるとよい。(令和5年度第1回委員会で状況を説明できる予定と回答。)</p>	<p>「海一郷林道」の名称で登録されていることを確認。</p> <p>次のモニタリング調査前に点検を行う考え。アクセス困難なプロットについては、代替調査を含めて検討することについて、資料4の管理方針書(案)に反映。</p> <p>昨年度末以降局の対応が遅れており整理できていない状況。次回の委員会に間に合うように委員と相談し準備を進める。</p> <p>現時点では捕獲状況について宮崎県、大分県、熊本県、鹿児島県についてデータ整理ができていところであり、議事3の報告で一部活用。分析を行い、視覚的にわかりやすい資料作成に努める。</p>
3	屋久島低地照葉樹林の保護林設定について	<p>保護林予定区域で施業計画があれば、計画段階で十分に検討されると思うが、図面を使って保護林に影響が出ないように、十分検討が必要であるということに関係者で共有してほしい。</p>	<p>屋久島森林管理署へは新規設定について通知し、担当者へは関連の資料も共有済み。今後も継続的に関係者に対し周知していく予定。</p>